

2022年5月22日（日）

近畿旧友会ハイキングクラブ さんほかい 燦歩会例会（第514回）

大阪空港 迫力の滑走路を一周（大阪・兵庫）

燦歩会始まって以来、これほどアップダウンの少ないコースは初めてでしょう。
平坦な飛行場の滑走路の周りを歩くのですから。



大阪国際空港（おおさか こくさい くうこう）は、大阪府豊中市・池田市、兵庫県伊丹市にまたがる空港です。 私たちには「伊丹（いたみ）」でお馴染み、コロナ禍以前は時々お世話になっていました。滑走路は2本並行しています。北側のA滑走路は1,828 m、南側のB滑走路は3,000 m、方位はほぼ北西と南東に向いています。（厳密には320度と140度）その周りに誘導路や緑地帯があり、私たちはその外周を歩きます。

午前10時、空港の東側、阪急宝塚線の曾根駅に集合。参加は男性13人、女性4人です。天候は快晴。暑くなることが予想され、コロナ対策と熱中症対策の両方が必要です。マスクの中が熱くなります。



曾根駅から15分程で、B滑走路の南端に着きました。大勢の方が空を見上げています。ここは離着陸を見るための格好の場所なのです。



大阪空港は、周りをすっかり市街地に囲まれている為、環境対策として運用時間は7時から21時まで、1日の発着は370回までに制限されています。厳しい制約から逆に定時運航の実績に優れ、世界で「定刻通りに出発できる効率的な空港」に選ばれたこともあるそうです。単純に割り算すると2分半に1機が離着陸する事になります。様々な飛行機がひっきりなしに、轟音と共に滑り込み、また駆け昇って行きます。



滑走路南端近くにある「豊中市伊丹市クリーンランド」を、先に見学します。この地で境を接する豊中市と伊丹市が、共同で運営するごみ焼却施設です。2016（平成28）年以来、両市の26万世帯の生活を支えています。壁面・屋上の至る所に、植物の鉢が取り付けられ、緑化が施されています。コンセプトは「森の中の再生工場」だそうです。



模型の左端で搬入されたゴミは、ピットと呼ばれる巨大な穴に仮置きされ、そこからクレーンで焼却炉に送られます。ゴミを燃やした熱は、ボイラーを経て発電機を回し、1日に4万世帯が使う程の電力を生み出しているそうです。



見学者コースからは、それらの動きを順番に見ていくことができます。焼却炉の中の燃焼の様子を、リアルな映像と熱気で体感できる部屋もありました。燃え盛る炎の映像と轟音に合わせて、天井部分からはなんと温風が吹き出しました。

そして10階の展望バルコニーからは、空港の様子を間近に俯瞰する事が出来ました。日本航空のボーイング787。時刻表で確かめた所11時30分羽田行き、定時の離陸です。



滑走路の南側に接して設けられている「伊丹スカイパーク」を歩きます。長さ1200m、小高い丘になっていて、離着陸を目の前に見る事が出来ます。子供さんにとっては、大好きな飛行機が見られるし遊具などもあって嬉しい場所でしょう。大勢の家族連れで賑わっていました。



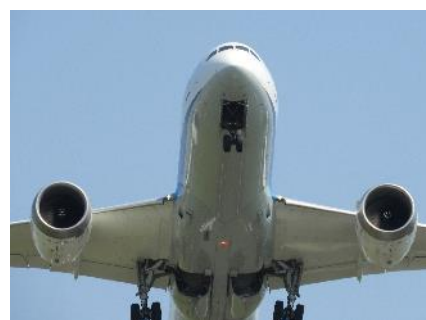
この日は、近隣の最高気温は 26 度を超えていましたから、水遊びも楽しそうでした。私たちがここで昼食をとりました。



会員 1 名が昼で抜け 16 名です。真ん中奥に見えるのが、空港の管制塔です。



泰山木の大きな花が咲く住宅地の間を縫いながら、北西に向かいます。A 滑走路の先端に当たる所も公園になっていました。「エアフロントオアシス下河原」です。離陸する飛行機が、滑走路の陽炎の中から、揺らぎながら姿を現し、やがて真正面から巨体が押し寄せて来ます。一瞬遅れて轟音の波が頭上に覆いかぶさり、飛び去るとあたりの空気が軽くなります。車輪を収納し、一気に上空を目指す様は、まさに「天翔ける」という言葉の通りです。



住宅地の中を空港の北側に回り込み、ターミナルビル前で15時過ぎに解散しました。

* * * *

相変わらずの蛇足で失礼します。滑走路の周りを歩くだけですから、蛇足の描きようも無いだろうと思っていたのですが、調べてみると、何とありました。

滑走路から出土した銅鐸

1938（昭和13）年に滑走路工事の最中に、銅鐸が出土します。高さ20.9センチと小型ですが、お坊さんの袈裟のような縦横の「袈裟襷（けさだすき）」の文様の銅鐸です。写真は「伊丹市史」に掲載されているその銅鐸です（所蔵者 辰馬悦蔵）。兵庫県の有形文化財に指定されています。滑走路の北端あたりの（字）中村で出土した「中村銅鐸」と呼ばれてきましたが、近年の研究では空港域内の（字）小阪田（おさかでん）で出土したものと考えられるようになっていきます。



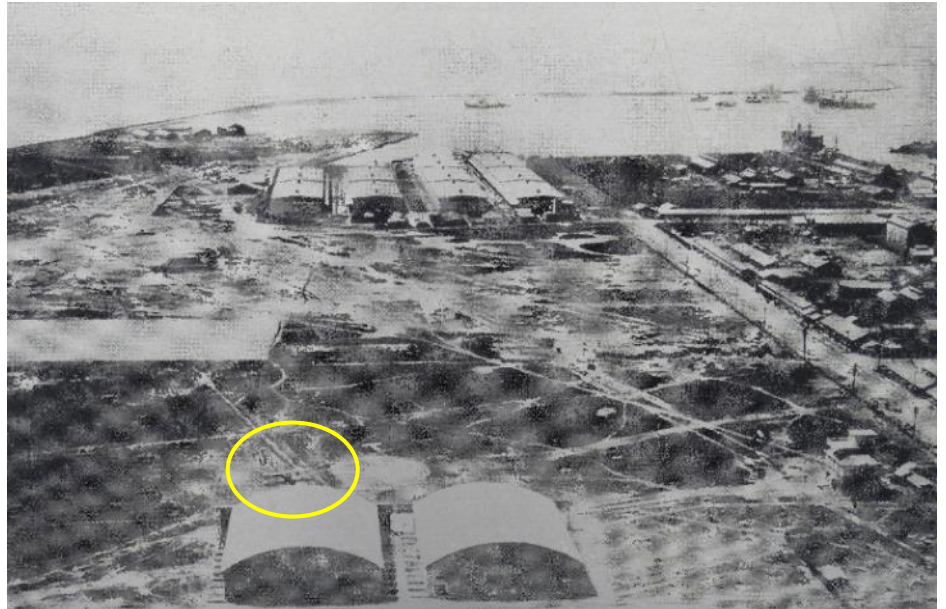
この中村銅鐸には兄弟がいる事が分かって来ました。2015（平成27）年に、淡路島の松帆で石材加工業の砂山から銅鐸が発見されました。見つかった銅鐸は全部で7個。「松帆銅鐸（まつほどうたく）」と呼ばれ、大きな話題になりました。その後の研究の中で、松帆銅鐸の一つが中村銅鐸と細部までサイズが一致、「同じ鋳型」で作られた可能性が出てきたのです。松帆銅鐸は、弥生時代前期から中期（約2200年前）に製作された古い段階の銅鐸です。遙かな時を経て、海を越えて離れ離れになっていた兄弟の消息が、偶然知れた訳ですね。

この中村銅鐸の所蔵者辰馬悦蔵（たつうま えつそう）さんは、銘酒「白鷹」醸造のかたわら、考古学の研究と考古資料の収集に努めた方です。1976（昭和51）年に「辰馬考古資料館」を設立、銅鐸・銅鏡・土偶・縄文土器・玉など、国の重要文化財21件を含む500件余りを所蔵、中でも銅鐸のコレクションは日本屈指であると評価されています。

なお、銅鐸の出土した「中村遺跡」の他に、空港の域内には二つの遺跡があります。その名も、「大阪空港 A 遺跡、大阪空港 B 遺跡」です。A 遺跡は昭和 12 年の工事中に発見されました。大きな土木工事の最中でしたが、現場技師の山田博雄さんが関心を持ち、出土物を保存して来ました。縄文式土器、弥生式土器から平安時代のものまであるそうです。B 遺跡は 1967（昭和 42）年の工事で発見されました。縄文～弥生時代の集落の跡と考えられています。

伊丹は第2飛行場 では、第1飛行場はどこに？

伊丹空港は、当初「大阪第2飛行場」と呼ばれました。では第1飛行場は、どこにあったのでしょうか？ 1920年代、飛行機で旅客や郵便・貨物を輸送する需要が増えて、きちんとした飛行場が必要になります。それまで大阪では木津川の河口の湿地帯に「木津川飛行場」がありました。1923年（大正12）年ごろから水上機の離着水が行われており、徳島、高松、松山、別府便などが運航されていました。正式には1929年（昭和4）年開港、滑走路の長さ720m、東京便と福岡便が飛びました。1938（昭和13）年には、年間発着回数8800回、旅客1万人を数えるなど、国内最大規模の航空拠点となります。しかし埋め立て地で地盤が軟弱なこと、周辺が工業地帯となって、煙突など障害物が増えたことなどから、本格的な飛行場の整備が急がれます。



大阪市大正区船町、鉄材を積んだ大型トレーラーがひっきりなしに往来する町。新木津川大橋の北詰め、巨大な3段ループ橋の根元に「木津川飛行場跡」の碑があります。当時の写真、遠景に船の見える中、滑走路は左方向に伸び、手前にはかまぼこ型の格納庫が並んでいます。黄○の所に見えているのは飛行機でしょう。

この巨大橋の下には、大阪市内に8つある渡船場の内「木津川渡船」が往復しています。大きな船が往来するため橋が高く、住民の方が簡便に利用できるように、無料で設けられているのです。

渡船で対岸に渡り、かつての飛行場のあたりを撮ってみました。



さて東京では羽田飛行場が1931（昭和6）年完成。福岡でも工事が着々と進んでいました。ところが大阪では建設地がなかなか決まりません。大阪市は南港の埋め立て地を考え、1933（昭和8）年から工事を始めます。これが第1飛行場です。さらにそれを補うものとして、予備の第2飛行場を作る事になりました。ところが、翌年「室戸台風」が襲来して、大阪市の財政は逼迫、工事は中断を余儀なくされます。第2飛行場の建設は大阪市の手から離れ、主管官庁の逓信省が直接担当する事になります。これがやがて、大阪国際空港になります。

1936（昭和11）年12月9日に起工式が行われ、工事は2年後の暮にほぼ完了します。2本の滑走路が南に向かってV字形に開く形でした。木津川飛行場の施設は、新しい飛行場に移され、木津川飛行場は1939（昭和14）年1月14日に解散。職員も第2飛行場に移ります。1月17日に「予備」のつもりのおお阪第2飛行場が開場、「第1飛行場」は幻と消えたのです。

国際線がないのに国際空港とは？

現在、伊丹空港に国際線の便はありません。それでも「国際」の冠が付いています。なぜ？1990年代の半ば関西国際空港が開港して、大阪国際空港から国際便がなくなります。そうすると「国は国際の2文字を外すのではないか？」と危機感が高まります。地元は「国際」の名称の存続を熱烈に要望し運動、結果「国際」の冠が残ったのです。近年、国はまたも法改正を機に、実態に合わない「国際」を外し、「大阪伊丹空港」の名称を用意しましたが、地元の意向に配慮し撤回したという事です。「国賓級の要人が特別機で来ることもあるし…」と。

* * * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在34名です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。

今後の予定は、

- ◎京街道を高麗橋から守口へ（大阪）
- ◎信楽高原鉄道・陶芸の森（滋賀）
- ◎隠岐の島ツアー（島根）
- ◎京都トレイル（第5回）
- ◎天理軽便鉄道跡を歩く（奈良）
- ◎浪花文学散歩（大阪）
- ◎寿長生（すない）の郷（滋賀）
- ◎五花街を巡る（後半）（京都）

ただし、コロナの推移に合わせて、柔軟に対応して行きます。

参加ご希望の方は、会務担当 山村恵一にご連絡下さい。

（電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp）

コロナに注意しながら、一緒に気軽に楽しく歩きましょう。（写真・文 生島 幸弥）